

素点欄には記入しないこと

素点番号
素点

I	
II	
III	

令和三年度
入学試験問題
解答用紙

国語 国語総合・現代文B・古典B

第一問

a	器官
b	洞察
c	購読
d	並列
e	挿入

第二問

感覚与件	f	対象の認識	F	具体的な対象	f	興趣	F
------	---	-------	---	--------	---	----	---

第三問

音楽も抽象画もともに具体的な対象を持つたのではなく、興味だけが表現されている芸術であり、漱石が自分の小説の中でそうした芸術の可能性を表現しているとは筆者が考えたから。

第四問

Iは「f」の集積によって「F」を形成する。
IIは「F」を「f」によって疑い解体する。

第五問

ピカソが「アヴァンギャルドの娘たち」という抽象画を描く一年前に、そうした絵画技法を『草枕』の中で描いた漱石の先進性を指摘しようとする意図。

第六問

乱調

第七問

形式面では、異なる言語形式を混在させたり、規定された結論に読者を導かながらたりしている点で実験的であり、内容面では、抽象的な興味を画にしようとする画工を登場させたり、女の表情をめぐる画工の錯綜した思考を描いたりしている点で実験的である。

第八問

も	学	積	既	い	イ	示	草	と	い	ウ	作	品	を	書	い	た	、	と	い	ウ	こ	こ	と	と
面	論	に	定	白	イ	示	枕	と	い	ウ	作	品	を	書	い	た	、	と	い	ウ	こ	こ	と	と
		よ	の																					
		フ	概																					
		テ	念																					
		シ	像																					
		レ	か																					
		結	と																					
		末	り																					
		に	め																					
		収	も																					
		斂	な																					
		再	い																					
		構	散																					
		築	限																					
		さ	り																					
		れ	な																					
		い	い																					
		い	限																					
		た	り																					
		、	な																					
		と	い																					
		い	感																					
		ど	覚																					
		こ	興																					
		こ	趣																					
		を	を																					
		読	象																					
		ん	の																					
		で	累																					
		文																						

(以上百字)

第二問

第一問

④ 方漢語動詞を「 <u>け</u> 」で導く形	② 断定の助動詞「 <u>なり</u> 」の已然形	③ 二行四段活用動詞なる導形
① 二行四段活用動詞なる連用形		

第二問

ア 田舎くは見慣れなかつた。
イ 深い傷と見えなむものもすくに治つた。
ウ 我が身は仇討ちを遂げに時死んだけれど、
エ 因縁があるからうそと私ほめなむを見せしめばなに見られもする。

問三	1	新古今和歌集	2	西行
問四		日もまば暮れず		

問五 C

問六 1 またく人の仕業とは思われぬ。

問七 2 女房が、平然と釜の中の熱湯を盥に汲んで湯浴みをし、いたいのぞ。
(以上三十字)

問七 1 其の身未になりて、傷多く蒙りにり。
(以上二十字)

問八 2 長年、父を殺しに相手定める祐経への仇を討つに執心し、相手への憎悪と怒りの念を募らせ、その結果とて、祐経を殺害し、争いを止めきれなかつたから。

祐成が僧に、	米年の秋、	小由原の城主に	生まれ変わるのぞ
と縁がめれば、	目貫ぎを	目印は会おうと言	にこと。

(以上五十字)

第三問

問一 a つひに b たまたま c たとび d いよいよ e しばしば

1 ① これをもつて ② こころをもつて

問二 2 病氣のため辞職を申し出て認められなかつたので、これでも懇願続けたこと。
3 こう、こうわけで

問三 汝 不_レ如_カ更_ニ適_{シテ}以_テ得_ニ良_一匹_ヲ也

問四 (1) オ (2) エ (3) ウ (4) イ

問五 A 今夫妻を去らざるに、妾奈何ぞ自ら去るを求めん(や)。
B 不義 正論より大なるは莫し。
C 安んぞ斯くのごとくも得んや(と)。

問六 ④

問七 無職となつて夫と別れるよう父に迫られても、夫が離縁と言ひ出さない以上、収入がなからぬと別れるは不義の極みと貞節を貫いた点と、姑に対して孝養を尽くした点。